「ストーマ造設を伴う下部消化管手術患者における入院期間延長要因の分析：ストーマ合併症以外に焦点を当てた検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療録を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

2024 年 04 月 01 日から 2025 年 03 月 31 日の期間に埼玉医科大学総合医療センター5 階西病棟に入院し、大腸癌と診断され、人工肛門造設術を実施した患者さんを対象としております。

２．研究の目的

近年、がん患者は増加傾向にあり、2023 年には 99 万 3,469 人が新たにがんと診断されています。そのうち大腸がんは 15 万 4,039 人で、全体の約 15.5%を占めています。当院においても、2024 年度の大腸がんなどに対する手術のうち、ストーマ造設を伴う術式は 120 件施行されています。ストーマを造設された患者は、術後の全身状態の安定や疼痛コントロールのみならず、新たな排泄経路への適応とセルフケア能力の獲得が必要となります。そのため、患者と家族と医療者が同じ目標となるような標準化された質の高いクリニカルパス（Clinical Path：以下 CP）が必要となっています。

CP は、ケアの標準化や入院期間の短縮、アウトカム評価から得られる情報による質の再評価と改善ができる重要なツールであります。しかしさまざまな要因により、CP 設定期間内に退院できない場合があります。5 階西病棟では、2024 年に本橋らが「人工肛門造設患者の早期退院に影響する因子の検証」の調査を実施しています。結果、ストーマに合併症が発生した症例は入院期間が延長する事が明らかとなりました。その中で「ストーマ以外の合併症の出現が関与していることが示唆されている」ことが明らかとなりました。

そこで本研究では、当院におけるストーマ造設を伴う下部消化管手術患者を対象に、ストーマ合併症以外の入院期間の延長要因を明らかにし、看護師が重点的に介入すべき課題を検討いたします。

３．研究期間

病院長の許可後～2027 年 03 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2026 年 10 月 01 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．情報の内容

※この研究で得られた患者さんの情報（年齢、手術日、術式、入院期間、合併症、治療経過）は、【埼玉医科大学総合医療センター５階西病棟】において、研究責任者である渡辺 友子、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

２．情報の取得方法

大腸癌と診断された患者さんの手術を実施した際に生じた診療記録等を用います。

３．情報を利用する者（研究実施機関）

・埼玉医科大学総合医療センター　5 階西病棟　渡辺 友子（研究責任者）

４．情報の管理責任者

【埼玉医科大学総合医療センター】　病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

〒350-8550　埼玉県川越市鴨田 1981 番地
埼玉医科大学総合医療センター
看護部・5 階西病棟・看護師・渡辺　友子
TEL：049-228-3624（直通）（平日 9 時～16 時）

〇研究課題名：ストーマ造設を伴う下部消化管手術患者における入院期間延長要因の分析：ストーマ合併症以外に焦点を当てた検討

〇研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 5 階西病棟 渡辺 友子